

「フランスの詩と版画 — ひびきあう魂の航跡」展 開催要項

あなたは知っていますか？

ときには甘く優しいエスプリを奏で、
ときには毒にあふれる一節を紡いだ、個性あふれる詩人たちがいたことを。

あなたは知っていますか？

かれらの才能に魅了され、
その言葉と向き合いながら、
詩に寄り添う版画を作りあげた美術家たちがいたことを。

ふたつの魂がひびきあい生まれた作品は、
芸術という大海原のなかに、
鮮やかな航跡を残しました。

- 展覧会名 フランスの詩と版画 — ひびきあう魂の航跡
- 会 期 2011年6月18日（土）～2011年8月7日（日）（44日間）
※ 月曜休館
ただし7月18日（月・海の日）は開館、7月19日（火）は休館
- 開場時間 火～金 10:00～17:00（入場は16:30まで）
土・日・祝日 10:00～17:30（入場は17:00まで）
- 主催・会場 町田市立国際版画美術館
（東京都町田市原町田4-28-1 Tel. 042-726-2771・0860 Fax. 042-726-2840）
※JR横浜線・小田急線町田駅より徒歩15分
- 観 覧 料 一般600（500）円／大学・高校生300（200）円／65歳以上300（200）円
※（ ）は20名以上の団体料金。※中学生以下は無料。
※展覧会初日の6月18日（土）は無料。
- 開催趣旨 時よ、来い、
ああ、陶酔の時よ、来い。
（ランボー／小林秀雄訳『地獄の季節』より）

ボードレーユやヴェルレーヌ、ランボー、ロートレアモンなどで知られるフランスの詩。その豊かな世界は文学という枠を超えて、多くの美術家にインスピレーションを与えてきました。20世紀以降、こうした詩に挿絵を添えた版画集が数多く制作されるようになり、たくさんの愛好家たちを魅了しています。

この展覧会では、ヴェルレーヌの詩にモーリス・ドニが挿絵を制作した版画集『叡智』、ロートレアモンの詩にサルバドール・ダリが挿絵を寄せたシュールレアリスムの記念碑的な作品『マルドロールの歌』、ランボーの代表作『地獄の季節』から着想したマッタの銅版画集など、約180点の版画作品を

ご紹介いたします。

- 主な出品作品
- ・モーリス・ドニ 『叡智』(詩：ヴェルレーヌ) 1911年刊、木口木版
 - ・サルバドール・ダリ 『マルドロールの歌』(詩：ロートレアモン) 1934年(1974年刊)、銅版
 - ・ジョルジュ・ルオー 『受難』(詩：シュアレス) 1939年刊、銅版
 - ・ジョルジュ・ルオー 『〈悪の華〉のために版刻された14図』(詩：ボードレー) 1966年刊、銅版
 - ・ベルナール・ビュフェ 『マルドロールの歌』(詩：ロートレアモン) 1952年刊、銅版
 - ・パトリック・コールフィールド 『ジュール・ラフォルグの詩』 1973年刊、スクリーンプリント
 - ・マッタ 『地獄の季節』(詩：ランボー) 1978年刊、銅版
 - ・山本正文 『未完の薔薇園』(詩：ビュトール) 1999年刊、銅版

関連催事

◇館長によるスペシャル・ギャラリー・トーク

6月26日(日) 午後2時から40分程度

※観覧券をご用意のうえ2階企画展示室入口にお集まりください。

◇学芸員によるギャラリー・トーク

7月3日, 17日, 31日, 8月7日

いずれも日曜日、午後2時から40分程度

※観覧券をご用意のうえ2階企画展示室入口にお集まりください。

◇学芸員によるスライド・レクチャー

6月19日(日), 7月2日(土), 7月16日(土)

いずれも午後2時から40分程度 会場：美術館講堂

※聴講無料。ただし企画展ご観覧の方が対象です。

◇「美術館で語りあおう・・・トークフリーデー」

会期中の水・土曜日 ※6月18日(土)を除く

作品を前にして友人や家族と語りあってみませんか? トークフリーデーは「鑑賞のための静けさ」よりも作品をめぐる会話を楽しんでいただくという試みです。小さなお子さま連れの方も気兼ねなくぜひご入場ください。

同時開催

ミニ企画(入場無料) 2011年6月15日(水)～9月25日(日)

①素朴な美—フランスの民衆版画

②シリーズ<現代の作家>長谷川潔

問合せ先

町田市立国際版画美術館 担当学芸員:高木幸枝

(〒194-0013) 東京都町田市原町田 4-28-1

Tel. 042-726-2771(代表) / 0860(学芸)

Fax. 042-726-2840

E-mail: bunspo040@city.machida.tokyo.jp

<http://www.hanga-museum.jp>

※この開催要項の情報は、電力供給等の諸事情により変更される場合があります。